

礼拝黙想 Meditating on Worship

A 「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。というのは、彼らは、神を知っているが、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたち似た物と代えてしまいました。それゆえ、神は、彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン」(ローマ 1:20~25)。

「愚かな者は心の中で、『神はいない。』と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない」(詩篇 14:1)。

自分たちは何でも知っている。すべて極めている。科学万能の時代に人間がおごり高ぶる。人間は、創造者である唯一まことの神を否定し、排除するために、様様なでっちあげをする。進化論者は、「すべてのものは偶然にでき、存在した。創造主など存在しない」と主張する。しかし、進化論を科学的に証明する物的証拠となるはずの化石などは、やはりでっちあげ。今日、ノンクリスチャンの科学者も進化論を否定

する者も増えてきている。

進化論者は、創造主なる神を科学的に否定できないのに、無神論を提唱している。進化論は科学というよりは、神はいないという前提に基づいた推論(仮説)に過ぎない。一方、創造主が存在し、すべて存在するものは、偶然ではなく、創造主のすばらしい設計によるという仮説を「創造論」という。進化論という推論(仮説)をあたかも唯一絶対的真理かのように教え込もうとするのは、まるで進化論を絶対視する宗教であり、進化論以外を否定して教えないことから、情報統制をしいているところからマインド・コントロールを使うカルトであると言っても過言ではない。

聖書では、神を無視する人々を「愚かな者」と呼んでいる。したがって無神論は、愚かな者の哲学、愚の骨頂とされる。それは世の中で最も愚かなことなのだ。

<無神論者の否定する神は人工の神>

無神論者の否定する神とは、人間が勝手に頭の中で作った空想上、架空の神である。彼らは「神が存在するとしたら、この世の現象や科学的事実と矛盾する」と主張する。したがって、神は存在しないと結論付ける。しかし、それは人間が頭の中で勝手に想定した神が理屈に合わない、自分の都合に悪いということに過ぎない。人間の理性を超えた神が存在する可能性を否定したわけではない。たとえば、愛なる神がいるなら、なぜ私はこんな目に遭うのか?という人がいるが、それは「無

条件に人間を甘やかす神は存在しない」ことを証明しただけで、まことの愛なる神の存在を否定する証明ではない。だから、神の存在を否定する人に対しては、「あなたの否定する神はどのような神か?」「そのような神であることをどうやって知ることができたのか?」「その知り方が正しいと言えるか?」と質問できる。また「神が本当に存在するならば、私の願い事をすべてかなえてくれるはずだ」という人がいる。そのような神は、ただのご利益神で、人格がない神。自己流の信じ方、一方的で、傲慢で自分勝手な方法を神に押し付けるのではなく、神の方法(神の啓示=みことば)を受け入れなければ、いつまで経っても確信は得られない。

<無神論者は知者ではなく愚者>

無神論者がなぜ愚かなのか?それは、無神論では到底生きていけないからである。無神論の立場を徹底的に突き詰め、その通りに生きようとしたことがあるだろうか?きっとノイローゼとなり、精神に異常をきたし、自殺するほかなくなる、破壊的な生き方に導く。無神論者の生き方、即ち、神の存在を否定する人生とは徹頭徹尾、無意味・無目的に生きること。それは実に愚かでむなしい生き方。

<無神論とは何か?>

絶対的存在である神を否定することは、この世には絶対的なものなどないと主張することである。善悪の基準や価値基準もない、すべての行為は無意味であり善でも悪でもない、とするこ

「教会【マラナサ・グレイス・フェローシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

とだ。でもそうなるとう無責任と混乱が生じる。創造主である神を否定することは、全ては偶然の産物であるから存在意義などない、とすることである。でもそうなるとう命の尊厳などない。無神論者にとって死とは、すべてが無になるということである。だから人生は空しいというわけだ。

無神論者にとって何のために生きているのかを問うことさえ無意味であり、ただ存在しているから存在している、としか言いようがない。そんな無意味・無目的な人生を無神論者はどのように生きるかというとう、その時、その時の自己満足を求めて、気晴らしや暇つぶしをする。愛や友情や平和や忍耐、勇気、自己犠牲なども本質的に無意味であって、それらに暇つぶし以上の意味や目的を認めることは、無神論の立場に反する。人間の行動を決定するのは、目的や意味ではなく、好きか嫌いかの感情である。

また、善悪の基準はないので、人を殺しても平気な顔をしていてよいのだ。あるいは誰が何をしようと放って置いてよい。絶対的基準でも有るかのようには批判する必要はないし、そうすることもできない。レイプ犯、通り魔、幼児虐待者、テロリスト、無差別殺人者たちも批判できない。無神論に立てば、人間が尊い根拠はなく、死ねば無であるから、人を何人殺そうが非難する根拠はない。あるのは善悪の判断ではなく、好きか嫌いかの判断。うそ、盗み、裏切り、殺人など、すべて善悪ではなく、好きか嫌いかの判断の対象に過ぎない。

実は人間は無神論の立場では生きられない。勉強、仕事、恋愛、結婚、新しい命の誕生、子育て、死、こうした

人生のすべての営みが無意味であることを正面から見据えることはできない。生きてても死んでも無意味だと、「無」を徹底させて生きることができるだろうか。それが無神論者たる者の純然たる生き方なのだ。

しかし、実際には神はいないという人もまるで神がいるかのように生きている。すべては、無意味、無目的、無価値だと信じている人でも、意味や目的や価値や基準があるかのように生きている。神は存在しないと信じながら、人間は生まれながらに無条件に尊いとか、愛が大切などと主張する。善悪の基準はないと主張しながら、良心に縛られて生きている。良心の呵責を覚える。罪悪感、罪責感にさいなまれる。無意味さを生きようとする一方で、実際には意味を求めて生きている。その意味を無視し続けるなら、精神的に病気になる。ノイローゼ。人生に行き詰まる。追い詰められ、自暴自棄となる。気力を無くし、あきらめる。人生をやめたい、消えてしまいたいと思う。現実には人間は無神論では生きられない。悲しいくらい愚かなことなのだ。

<無神論者と言えど、有神論者でないとう生きていけない>

人間は本来、①自分が何者かというアイデンティティー、②人生の意味や目的、③絶対的で永遠で不変なもの、④愛し愛されることを求めている。無神論者を自称するする人々も、実際は無意識のうちに何らかの形でこうしたものを求めて、心の空洞を満たそうとする。しかし、無神論の立場に固執して中途半端に生きているので、その空洞を満たすことはできない。人間の心の空洞を完全に満たすことのできるのは、人間を創造した神だけ。というの

は、その空洞を造られたのも神だから。神は、人間が神を求め続けるようにと、人間の心の中にそうした空洞「永遠(への思い)」(伝道者の書 3:11)を設けられた。だから、人間はその神に出会うまでは求め続ける。神との出会いがあって初めて人間存在は意味を持つようになる。つまり、人間は神なしには、満たされた人生を生きることができようには造られている。「パスカルの原理」で有名なブレイズ・パスカルも「人間には神にしか満たすことのできない空洞がある」と告白している。古代西洋教会最大の教父アウグスティヌスも「神よ、あなたは私たちをあなたのために造られました。私たちの心は、あなたの中に憩うまで平安がないのです」と述べている。

真の神は唯一であって全宇宙を秩序をもって造られた創造主にして人格をもった父なる神である。そのお方の語りかけに耳を傾けてほしい。その方の啓示の書である聖書に目を留めてほしい。そうすれば、大不況、大恐慌、大災害、大困難、大問題だろうと、恐れるに値しない。聖書の神はあなたを造られた。あなたのために一番大切なひとり子イエス・キリストを十字架で死なせるほどにあなたを愛している。

「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」(ローマ 5:8)。

「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう」(同 8:32)。Ω

■ 次回の日曜午前礼拝 4/10 午前10:30～ ● 4/8(金)夜のBSはキャンセル

▲ ブログ:3/25『東日本大震災シリーズ(1) 3・11 大地震 大津波 放射能汚染の未曾有の三重苦 それは想定外であったか?』

3/26、27『東日本大震災シリーズ(2) あの地震は一体何だったのだろうか? 天罰? 神様の警告? 『Gaman』(我慢)?』

「教会【マラナサ・グレイス・フェロシップ(略称:MGF)】はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ 1:23)。「そしてあなたがた【MGF】は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ 2:10)。